

地域医療構想調整会議での主な意見 ①

調整会議	主な意見
福井地域 (3月11日)	<ul style="list-style-type: none">• CAREBOOK（ケアブック）は情報伝達が早く、現場からは電話やFAXの回数が減り効率的と評判がとてもよい。• 退院調整の円滑化のため、医療と介護の連携ツールの検討を進めてほしい。• 介護施設は需要数に対して足りているか、人手が足りているか懸念がある。• 病床稼働率は季節により大きく変わるため、ピーク時を考慮すると病床を削減できないが、医療人材の確保の面から、病床の削減を検討する病院もある。• 新たな地域医療構想においては、二次医療圏の設定や、病床機能と医療機関機能の関係について、今後よく検討してほしい。• 小学生・中学生へ医療職の魅力をアピールする取り組みが必要• 福井県内の看護学校を選んでもらえるような取り組みや、県外に就職した看護師が福井に戻ってくるようなアプローチが必要
坂井地域 (3月10日)	<ul style="list-style-type: none">• 介護施設において、もう少し医療的行為ができるようになれば、病院と施設の連携がしやすくなる。施設の手不足も退院調整に影響している。• 介護職員へ吸痰等の指導を実施しているが、不測の事態が起きないか心配であるなど、職員への負担が大きい。• 現状では、医療的行為が必要な患者について、療養型病院や介護医療院に頼る部分が多い。• 働き方に対する考えが変化してきており、今後、在宅医療を行う医師の確保が難しくなると感じる。• ACPが十分に整理されていない。エンディングノート「つぐみ」が上手く活用されていないように感じる。
奥越地域 (3月7日)	<ul style="list-style-type: none">• 現在でも高齢者救急等の受け皿となっている「急性期」病院は多く、新たな地域医療構想では「包括期」の病床数が増えると推測• 公立病院が無い地域では急性期医療提供体制の維持が課題• 奥越地域の医療提供体制を維持するためには看護師が必要であり、看護師養成所の学生確保や大学卒業後の県内定着が重要• 小学生・中学生へ医療職の魅力をアピールする職場体験や、看護師などを目指す学生の県外流出を防ぐ取り組みを検討してほしい。• 坂井地域での医療・介護の受入れ状況を見える化するシステムは非常に有用と感じた。

地域医療構想調整会議での主な意見 ②

調整会議	主な意見
丹南地域 (3月5日)	<ul style="list-style-type: none">• 眼科や耳鼻科を希望する若手医師が多く、今後、外科等の全身を診られる医師が少なくなることが課題• 医師の高齢化により、在宅医療と外来診療の両立が難しくなっている。• 転院前の紹介状から想像するイメージと実際の患者の病態が乖離していることが多い。• ACPについて、県民の理解が進んでいないように感じる。ACPは変化するものであり、何度も考える必要がある。• CAREBOOK（ケアブック）は効率よく転院調整を行える有用なツールであり、丹南地域でも広げてほしい。• 丹南地域は看護師数が少なく、介護人材も不足している。県全体で薬剤師が他県と比べかなり不足している。• ケアマネジャーの処遇改善があまり進んでいない。
二州地域 (2月26日)	<ul style="list-style-type: none">• 介護施設における人手不足や医療機能の強化について検討してほしい。胃ろう増設や中心静脈ポートがある患者の受入れが難航する。• 介護申請を始める段階から施設入所の手続きも進められると、転院からの移行がスムーズになるのではないかと。• 地域医療構想調整会議や関係者が集まる協議に介護施設も参加し、施設側からの意見を聞けるとよい。• 最近では社会的背景に困難を抱える人が増えており、身寄りのない方や生活保護の方について、施設入所の申込ができないことがある。• 薬剤師確保の取組みについて、引き続き検討してほしい。
若狭地域 (3月3日)	<ul style="list-style-type: none">• 高度急性期を担う病院は福井地域に集中しており、若狭地域では回復期病床も少ない。• 高齢者救急の増加による病床のひっ迫が懸念されるため、介護施設での看取りをよく検討すべき。• 訪看では、ふくいみまもりSNSは患者の治療経過が分かるため、スムーズに在宅移行できると感じており、利用する医療機関が増加してほしい。